

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成28年度)

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

代表者氏名 山崎 剛志

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	山崎 剛志	福祉、経営	H0601040
	②	狩野 節子	経営	H1101048
	③	青木 みな子	福祉	H1401019
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	港区立しばうら保育園			
事業所連絡先	〒	108-0023		
	所在地	東京都港区芝浦3-1-16		
	TEL	03-5232-1130		
事業所代表者氏名	倉田 雅子			
契約日	2016年 9月 8日			
利用者調査票配付日(実施日)	2016年 11月 1日			
利用者調査結果報告日	2017年 1月 10日			
自己評価の調査票配付日	2016年 10月 3日			
自己評価結果報告日	2017年 1月 10日			
訪問調査日	2017年 1月 17日			
評価合議日	2017年 2月 20日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事業所の協力のもと、利用者調査の用紙を保護者(園児)へ配布して頂いた。回収については、評価機関指定の封筒を活用し事業所内に設置してある回収ボックスまたは郵便ポストへ投函して頂いた。職員自己評価は評価機関指定の封筒を活用し、事業所でまとめて郵送して頂いた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。 クリア

2017年 3月 30日

事業者代表者氏名 港区立しばうら保育園 倉田 雅子 印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【法人理念】 ・「あったかい心」をもつ子どもに育てる</p> <p>【保育方針】 ・「思いやり」の気持ちを大切にします ・一人ひとりの「得意」を大切にします ・「生きる力」を大切にします ・「好奇心」が伸びる環境を大切にします ・「地域との関わり」を大切にします ・「経験」「体験」を大切にします</p> <p>【保育目標】 ・「こころ」認めあう子ども・チャレンジする子ども ・「あたま」興味を表現する子ども・発見を大切にす子ども ・「からだ」楽しく良く食べる子ども・からだ中であそぶ子ども</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>・相手の立場を尊重し理解した上で言動ができ、感情的にならず冷静な対応ができる。すべての人に「気持ちよさ」を届けられる人材。養護と教育のバランス良い保育をし、「人として生きる力の基礎」の礎とする。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>・子どもは「限らない可能性を秘めた存在」であることを理解し、保育を實踐して欲しい。そして職員は保育所が子どもの健康、安全で情緒の安定した生活、健やかな成長を保障する環境であるように努め、子どもの権利を重んじた児童福祉法、児童憲章に則り、子どもにとって望ましい環境を整えていく使命を心にとめておいてほしい。</p>

調査対象

保育園に通っている園児184世帯219人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保護者に、封入したアンケート用紙を回収ボックスに投函願ひ、回収ボックスごと回収したうえで集計した。傾向を掴むために、各問別のグラフを用い分析し、保護者の属性でもある勤務形態(常勤勤務とそれ以外)の比率を把握することで自由意見などのバラツキも確認できた。

利用者総数

184

共通評価項目による調査対象者数

184

共通評価項目による調査の有効回答者数

108

利用者総数に対する回答者割合(%)

58.7

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」29.6%、「満足」50.9%の計80.6%であった。自由意見では、「園庭が建物内にあるので、園庭に出やすくなって、遊ぶ頻度が増えたのでよかったです」「食育や英語、お話し会などのお楽しみがあって、どれも工夫されていることが良いです」「先生たちがとても親切で、子どものことを第一に考えてくださり、適切な指導や対応をしてくださることに本当に感謝しています」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「食事」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの16問中12問が80%以上の支持を得ており、50%を下回ったのは「苦情窓口」の1問である。それ以外の設問は50%前半～70%台後半の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	96	8	4	0
「はい」の回答は88.9%、「どちらともいえない」の回答は7.4%、「いいえ」の回答は3.7%であった。 自由意見では、「自宅では自分で食べようとしなのに、園では一人で食べていることに驚きます」「いつもメニューを見て参考にさせてもらっています。子どもも完食しているようです」という声が寄せられている一方、「おかわりができないため、子どもによっては足りないのではという心配がある」という意見が寄せられていた。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	55	25	28	0
「はい」の回答は50.9%、「どちらともいえない」の回答は23.1%、「いいえ」の回答は25.9%であった。 自由意見では、「回数は少ないが、四季の変化が感じられるようにお散歩をして下っていると思います。遠慮せず、服を汚して遊ぶ機会をたくさん設けて頂きたいと思っています」という声が寄せられている一方、「園庭以外にも、散歩に行く機会を、もう少し増やしてほしいです」「もう少しお散歩や公園遊びをしてほしい。もっとどろんこ遊びなどを取り入れてほしいです」という意見が寄せられていた。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	90	8	3	7
「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は7.4%、「いいえ」の回答は2.8%、「無回答・非該当」の回答は6.5%であった。 自由意見では、「急な残業でも、快く対応して頂き助かっています」「急な仕事でも、全て対応してもらっており、大変助かっています」という声が寄せられている一方、「なんとなく頼みにくいです」という意見が寄せられていた。				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	92	9	6	1
<p>「はい」の回答は85.2%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は5.6%、「無回答・非該当」の回答は9%であった。 自由意見では、「先生たちも良くみて下さっています」「有人管理(警備員在中)やオートロックと、セキュリティーの高さを感じます」という声が寄せられている一方、「子どもがエレベーターに、すぐ乗れる環境は危ないと思います」「本が置いてある階段に、ぶつけることが良くあります」という意見が寄せられていた。</p>				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	94	9	5	0
<p>「はい」の回答は87.0%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は4.6%であった。 自由意見では、「年間行事予定が、年度はじめに配られるので助かります」「基本的には土、日の設定なので参加しやすいです」という声が寄せられている一方、「保護者の懇談会が、平日の設定がされており、参加するのが大変です」「詳細についての連絡をもう少し早めにほしい」という意見が寄せられていた。</p>				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	87	11	9	1
<p>「はい」の回答は80.6%、「どちらともいえない」の回答は10.2%、「いいえ」の回答は8.3%、「無回答・非該当」の回答は9%であった。 自由意見では、「先生たちは、とても話しやすく、いつも丁寧に対応してもらっていると感じます」「迎えのときなどに、状況を共有できている」「園長先生の対応が早いです」という声が寄せられている一方、「先生たちはお忙しいようなので、余程のことがない限りは、話しができないと感じます」という意見が寄せられていた。</p>				
7. 職員は保護者の考えを聞く姿勢があるか	83	14	5	6
<p>「はい」の回答は76.9%、「どちらともいえない」の回答は13.0%、「いいえ」の回答は4.6%、「無回答・非該当」の回答は5.6%であった。 自由意見では、「相談も良く聞いて頂き、ありがとうございます」「こちらが相談をすると、親身にこたえてくれる」という声が寄せられている一方、「先生によります」「先生たちは忙しく、余裕がないように見えます」という意見が寄せられていた。</p>				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	97	4	1	6
<p>「はい」の回答は89.8%、「どちらともいえない」の回答は3.7%、「いいえ」の回答は9%、「無回答・非該当」の回答は5.6%であった。 自由意見では、「きれいにしてお下さっています」「いつもきれいです」という声が寄せられている一方、「幼児トイレは少し汚い印象があります」「下駄箱付近の、砂や汚れが目立つときがあります」という意見が寄せられていた。</p>				
9. 職員の接遇・態度は適切か	90	7	5	6
<p>「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は6.5%、「いいえ」の回答は4.6%、「無回答・非該当」の回答は5.6%であった。 自由意見では、「若い先生たちもいますが、皆さん先生らしくさわやかです」という声が寄せられている一方、「親のいるときと、いないときで、保育士の子どもに対する態度や言葉遣いが異なるのが気になります」という意見が寄せられていた。</p>				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	88	11	1	8
<p>「はい」の回答は81.5%、「どちらともいえない」の回答は10.2%、「いいえ」の回答は9%、「無回答・非該当」の回答は7.4%であった。 自由意見では、「いつもとても親切に対応してもらっていると感じます」「連絡ノートを活用し、送迎時にフィードバックもあり安心です」という声が寄せられている一方、「何か異変や熱があるとすぐに連絡をくれるが、もう少し様子を見てほしいと思うときがあります」という意見が寄せられていた。</p>				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	61	24	5	18
<p>「はい」の回答は56.5%、「どちらともいえない」の回答は22.2%、「いいえ」の回答は4.6%、「無回答・非該当」の回答は16.7%であった。自由意見では、「トラブルになる前に対応してくれている様子です」という声が寄せられている一方、「先生たちは、どちらの味方もできないため、難しそうでした」「職員が少ないのか、あまり見れていない」という意見が寄せられていた。</p>				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	87	11	4	6
<p>「はい」の回答は80.6%、「どちらともいえない」の回答は10.2%、「いいえ」の回答は3.7%、「無回答・非該当」の回答は5.6%であった。自由意見では、「第2子が産まれたときに、先生たちのきめ細やかなサポートのおかげで、在園中の子は、ほとんど赤ちゃんがえりもなく助かりました」という声が寄せられている一方、「一部の先生はしてくれませんが、その他の先生はわかりません」「先生によって差があります」という意見が寄せられていた。</p>				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	93	9	2	4
<p>「はい」の回答は86.1%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は1.9%、「無回答・非該当」の回答は3.7%であった。自由意見では、「特にプライバシーに関する問題を感じたことはありません」という声が寄せられている一方、「何回か疑問に思うことはありましたが、悪気はないと思います」という意見が寄せられていた。</p>				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	88	13	7	0
<p>「はい」の回答は81.5%、「どちらともいえない」の回答は12.0%、「いいえ」の回答は6.5%であった。自由意見では、「日誌に細かく書いて下さるので、楽しみにしています」「週の活動予定や、その日にしたこと、行事の持ち物など、まめに掲示して下さるのでわかりやすいです」という声が寄せられている一方、「月1回のお便りでしかわかりません」「保育活動の具体的な内容の告知が直前すぎると感じることもある」という意見が寄せられていた。</p>				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	90	11	5	2
<p>「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は10.2%、「いいえ」の回答は4.6%、「無回答・非該当」の回答は1.9%であった。自由意見では、「きちんとしたお手紙や園長先生からのお話があります」「散歩が少ないことを話したら、年間5～6回しか行かなかった散歩が、なんとか週1～2回までに増やしてもらえるようになりました。大変ながらも変えてもらえたと感じます」という声が寄せられている一方、「今のところ大きな不満はないが言いにくい。言うのは申し訳ないと思うことはある」という意見が寄せられていた。</p>				
16. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	37	35	22	14
<p>「はい」の回答は34.3%、「どちらともいえない」の回答は32.4%、「いいえ」の回答は20.4%、「無回答・非該当」の回答は13.0%であった。自由意見では、「入園のときなどに、説明があったかもしれませんが、よく覚えていません」「知らなかったが、苦情はないので問題ない」という意見が寄せられていた。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定	
サブカテゴリ1(1-1)		
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		9/9
評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している		
		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	○非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

カテゴリ1の講評

園の目指している理念や方針を幅広く周知している

保育園の運営理念や園目標などは、入園のしおりや当社のホームページ、パンフレットなどに掲載している。「入園のしおり(重要事項説明書)」には、理念「あったかい心」をもつ子どもに育てるや方針、保育目標などを記載している。入園面接時の説明や保護者会の場で説明している。理念や方針、目標は、事務室や各クラスへ掲示している。職員には、入社前研修で園の目指している理念や方針、職員の心得などを周知徹底している。

経営層は役割や責任を説明し、園運営を牽引している

経営層の役割や責任、園の体制などは、施設運営業務マニュアルや職務分担表などに明記されており、新年度の職員会議の際に運営理念や園の保育理念、組織としての年間目標を職員に説明している。経営層は園内外での活動に積極的に参画している。

園の重要事項は職員参加で決定され、関係者に周知されている

園運営に関する重要事項に関しては、施設運営業務マニュアルにもとづいて意志決定を行っている。保育運営に関する重要な案件は、管理職会議や職員会議、リーダー会議、行事担当者会議などで話し合っ決定している。職員に対する重要事項の説明は、クラス申し送りノートへの記載で周知し、職員会議で確認している。職員はいずれかの会議で必ず意思決定に関わっており、決定経緯を含めた内容は全職員へ周知している。保護者には、園だよりやクラス懇談会、保護者会を開催し、書面を配布している。

2			カテゴリー2	
経営における社会的責任				
サブカテゴリー1(2-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している			○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる			○非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している			○非該当
サブカテゴリー2(2-2)				
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点(〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)			○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている			○非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している 評点(〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している			○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)			○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている			○非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている 評点(〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している			○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている			○非該当

カテゴリー2の講評

職員へコンプライアンス(法令遵守)について周知徹底し、地域にも情報発信している

コンプライアンス(法令遵守)の面では、入園のしおりに「児童憲章」「児童福祉法」を掲載し、施設運営業務マニュアルや就業規則に職員の姿勢が明記されている。職員は入社前研修時に職務に対する姿勢や心得、守秘義務の遵守、情報開示などを習得している。地域社会に対しては福祉サービス第三者評価を実施して結果を公表し、透明性を高めている。また、行事や地域支援事業などの情報は、施設見学者や「みなとっこ」の登録者、小学校、地区運営会議などに幅広く情報の提供をしている。

地域連携として子育て安心プロジェクトや子育て支援の取組を行っている

地域連携について、地区総合支所会議や子育て安心プロジェクトなどの関係機関との協力があり、自園の子育て支援で在宅家庭の親子との交流を活発に行っている。保育の面では保育所園長会に加え、地域保育園間での公開保育や保育見学などが展開されている。保育の専門性を地域に還元する取組として、かかりつけ保育園「みなとっこ」の登録制度を実施しており、園庭や室内遊びの交流を実施しているほか、身体測定や給食試食会などを行っている。近隣の保育園への園庭開放も行っている。

ボランティア活動への受け入れ体制を整え、地域との積極的な交流に努めている

ボランティア事業に関しては、受け入れマニュアルを作成して実施体制を整えている。また、オリエンテーションの際には留意事項を伝えている。

現状としては、公的なボランティアの要請は見られない。地域の高齢者の団体の方々の絵本の読み聞かせを通して、世代間交流を図っている。区の文化を取り入れ、5歳児は「赤坂能」の指導をいただき、「赤坂能」の発表会に参加し、地域との交流を図っている。また3～5歳児は、勤労感謝の日には、日々交流している郵便局や歯科、医院、交番へ感謝を伝えに出かけている。

3			カテゴリ-3	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用				
			サブカテゴリ-1(3-1)	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			8/8	
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当	
◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○非該当	
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		○非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○非該当	
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる		○非該当	
◎あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる		○非該当	
◎あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している		○非該当	
カテゴリ-3の講評				
苦情解決制度を入園面接時に説明し、各階に意見箱を設置している 苦情相談窓口について、入園のしおり(重要事項説明書)に明記し、入園時に説明している。保護者の意見や要望は、各階に意見箱を設置し、把握に努めている。苦情窓口として園や法人、区の担当窓口が行っていることの掲示がされている。行事終了後のアンケートで寄せられた保護者の声は、次回の行事の改善に役立っている。				
保護者の意向を集約・分析し、サービス向上の実現化に向けて取り組んでいる サービスの質の向上に向けた取組の一環として、利用者の意向を集約して分析するために、園では「意見箱」を各階に設置して広く意見を募っている。また運動会や生活発表会のような保護者参加の行事後には、アンケートを実施し、保護者から見たサービスの現状や問題を把握し、次年度の保育に反映していく意向を持っている。今年度、安全を図るために定期的に変更する入口の解除番号の保護者への伝え方を改善している。常に、問題解決に向けたサービス向上の取組に努めている。				
地域の関係会議を通じて、保育事業や地域ニーズなどの状況把握を行っている 福祉事業全体の社会動向などは、国・都・区・各関係機関からの情報誌や区の広報課から送られてくる区報などを回覧して、把握に努めている。また、保育関係の新聞抜粋を収集し、情報をファイリングして、いつでも活用できるようにしている。公立保育園長会や副園長・主任会、各関係機関へは積極的に参画し、地域の福祉ニーズの収集に努めている。また、地区運営会議で連携を図り、地域の情報を収集し考察することで、事業の運営に役立っている。				

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している 評点(000)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している 評点(0000)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
◎あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(0000)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
◎あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んで いる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **4/4**

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
◎あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-4の講評

法人理念や方針、目標から取組む項目を定め、計画を策定している
 法人の理念や方針、目標に基づき、3か年の中期事業計画が策定されている。保育サービスの質の向上や安全な施設環境の確保、人材の育成などを項目としてとりあげ、3か年の具体的な取組む内容を記載し、年の前期と後期、年間のふり返りを行い、改善点を明確にし、次年度に反映し、発展的推進を図っている。

多角的な視点から反省を行いながら、保護者の意向も把握し計画を推進している
 行事の実施において、サービスの現状を把握するために、アンケートから保護者の意向を把握し、結果を踏まえて計画を立てている。アンケートの結果から、運動会会場は調整し決定し進めている。計画の進行状況を点検するために、手引き書類を作成して事業を推進している。各クラスごとに、保育の面では週や月および期ごとに反省を行い、指導計画の評価や反省を図っている。

安心・安全面でのマニュアルにもとづき、事故防止や再発防止に努めている
 安心・安全面では、防災や防犯については避難訓練計画や危機管理マニュアル、学校110番などのシステムを整備し、警察や消防と連携した訓練を実施している。子どもの安全管理に向けては、職員が業務の内容や場面に応じて確認すべき事項を施設運營業務マニュアルや施設運営の手引きに定めており、施設内外の危険箇所は「チェックリスト」を作成して、点検している。危険項目や内容、防止策をまとめ職員間で共有することで、再発防止に取り組んでいる。

5			カテゴリ-5		
5			職員と組織の能力向上		
			サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		8/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている			評点(000)		
評価	標準項目				
◎あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している				○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている				○非該当
◎あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる				○非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる			評点(00000)		
評価	標準項目				
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している				○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している				○非該当
◎あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している				○非該当
◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている				○非該当
◎あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している				○非該当
			サブカテゴリ-2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる			評点(000)		
評価	標準項目				
◎あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している				○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる				○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる				○非該当

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

職員と組織の能力向上を図るために、適材適所の配置が行われている

当園の人材確保や育成は、法人の施設運営業務マニュアルおよび事業所に求められる職員像にもとづいて運営されている。法人は人事制度に関する方針策定や規程の作成、人材採用、人員配置、職員教育、福利厚生などを一括して行っている。園長では個人能力向上シートや職員面接票をもとに職員の評価を行い、クラス希望などは、一人ひとりの職員ヒアリングにより把握している。職員の個人能力向上シートは、内容や達成基準など自己評価を行い、園長が確認し、評価するしくみになっている。

個人の年間研修計画をもとに、職員個人別育成を行っている

職員の資質向上のために、法人の研修や区の研修受講のシステムがあり、研修計画にもとづき職員は研修を受講している。個人年間研修計画は、上期と下期に成長目標と研修目標を明記し、研修のテーマと実績を記載し、上期、下期を終えて自己反省で振り返りを行っている。専門職として求められる具体的な技術の向上に向けた、さまざまなOJTも実施されている。また、本社のステップアップ研修とアドバンス研修が設定されている。園長は職員とヒアリングを行い、研修計画に対してアドバイスのコメントを記載している。

区と経営層により、職員のやる気向上に向け、さまざまな環境が整えられている

職員の意欲向上のために、法人のシステムに沿ったマネジメントを行っている。また、育成評価や健康診断、研修受講、福利厚生など、相談に応じる体制が整っている。園内では各職員の持っている能力を最大限に発揮できる環境をつくり出していくために、日ごろから職員とのコミュニケーションや、園内研修を計画的に行っている。

園長は、夕方のミーティングをサロンの要素をもたせ、職員がリラックスできる環境に努めていることも、職員のやる気向上に繋がっていると考えている。

7		カテゴリ-7	
情報の保護・共有			
サブカテゴリ-1(7-1)			
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(0000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-7の講評			
<p>情報の重要度に応じてアクセス権限が設定され、定期的にメンテナンスを行っている</p> <p>情報の保護と共有に向けた取組は、区の規定や施設運営業務マニュアルにもとづいて運営されている。園で収集した情報は、その重要性や機密性に応じてアクセス権限や情報媒体の制限などが設定され、安全管理や文書管理が徹底されている。</p> <p>園のPC(パソコン)にはパスワードの設定がされており、職員が日常使用する情報は、PCの共有フォルダーにファイルされ、必要に応じて活用している。</p> <p>個人情報保護の方針や対応の内容は、保護者に説明している</p> <p>個人情報保護法への対応面について、園で扱っている個人情報については、入園面接時に入園のしおり(重要事項説明書)をもとに利用目的などを保護者に説明し、文書でも同意を得ている。</p> <p>規程の概要(プライバシーポリシー)と開示請求のしくみの説明については、重要事項説明書に対応方法が明記されている。</p> <p>職員は研修で情報の保護の重要性を確認しており、また実習生やボランティアへも個人情報保護について説明をしている。</p>			

カテゴリ-8

8 カテゴリ-1～7に関する活動成果

サブカテゴリ-1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」
 ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」
 ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

理念や方針を唱和することで、園が目指す方向が明確になり業務内容が向上している
 ・日々、30秒の誓いや理念、方針、目標を朝礼や昼礼、職員会議で唱和している。唱和することにより、職員の団結力が強まり、園が目指す方向性がより明確になっている。保育内容や行事の取組では、理念や方針、目標の意識化が図られ、ねらいを大切に考慮して行っている。

サブカテゴリ-2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

研修計画が提示され、経験年数に応じた研修受講から保育内容に成果があがっている
 ・職員一人ひとりの研修計画が会社から提示され、経験年数に応じたアドバンス研修を選択し、受講している。受講後の研修報告から、職員の保育に対する意欲が高められ、保育の展開に活かしている。会社の研修へ積極的に参加し、保育力を高めている。

サブカテゴリ-3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」
 ・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者の意向を確認し、子どもの状況にあわせた行事のあり方に成果があがっている
 ・保護者の意向を反映した運動会会場に変更し、おじいちゃんやおばあちゃんも参加できるスペースを確保することができ、改善されている。
 ・秋祭りの行事は、午前、午後、夕方の3パターンで実施することで、子どもの状態や利用状況にあわせたスムーズな運営ができています。

サブカテゴリ-4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

職員一人ひとりが、コスト削減の意識が向上している

・月々の予算を予算管理簿で把握し、職員一人ひとりがコスト削減の意識を持つことで、収支バランスの良い予算執行がされている。

サブカテゴリ-5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
 ・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

行事では保護者アンケートの課題を解決することから、保護者満足が向上している

・行事に関して、昨年度の行事アンケートの結果からの課題解決を行い、その結果から運動会会場の変更を行っている。そのことから多数の人の参加をいただき、保護者満足を得ている。
 ・地域会議での公園情報を得ることで、子どもたちへ安全な活動を広げることができている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>園の情報は、区のホームページや園のしおりなどから入手できる 入園や見学を希望する保護者への情報の提供は、区のホームページや法人のホームページから入手できる。法人のホームページには保育内容など載せている。来園者に向けては、園のしおり、「保育園入園のごあんない」を配布している。また、園舎入口には地域の子育て情報を設置している。</p> <p>ホームページやしおりの内容は、保護者の特性を考慮して作成している 利用希望者などの特性を考慮し、提供する情報(園のしおり・ホームページ・リーフレット)の表記や内容をわかりやすく図にしたり、バギー置き場の掲示、予防接種の概要を英語で作成し、要望があれば提供もしている。各クラスの保育活動の様子は写真を掲示し、わかりやすくしている。</p> <p>見学はリーフレットをもとに説明し、見学しながら質問を受けている 園では、週1回の見学会を設定している。見学の問い合わせには、見学を希望する日時の調整を行い、希望を聞き柔軟に受け入れるようにしている。見学者の対応は主に園長や副園長が行い、園内見学しながらリーフレットに沿って、園の特徴や取組について説明している。また、各部屋を回り子どもたちの活動する姿を見ながら、見学者からの質問にも応じている。予約がない訪問に関しては、園の構造上、1階警備室でリーフレットを渡し対応している。</p>		
サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p> 保護者の意向や要望を確認し、必要な情報と合わせて、決められた書式に記録している 入園決定後、区から児童票やアレルギー希望調査などの書類が各家庭に送付され、入園説明会(個人面談)の日程を知らせ、必要な書類の記入を依頼している。個人面談では、書類の確認と子どもの生活状況などを詳しく聞き取り、朝・夕保育などの保育時間の確認をしている。入園面接で把握した子どもや保護者の情報を児童票に追記し、児童票ファイルに閉じている。親子一緒に写真を撮り職員が親子の把握ができるようにしている。入園説明会では、園の基本ルールや健康面について園長や看護師が説明し、説明を受けた旨の署名を同意書に頂いている。 </p> <p> 入園後の不安を軽減できる配慮や卒園後も継続した支援が受けられるようにしている 入園直後の子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している。児童票や面談チェック表を確認し、保護者の就労状況を把握して保育時間を決めている。職員は、家庭での生活リズムや、子どもの状況を把握して無理なく園生活に慣れていけるようにしている。保護者と連絡ノートや口頭でやり取りし、家庭や園での子どもの様子を共有することで、子どもや保護者の不安を軽減するようにしている。就学支援に向けた配慮として、保護者の同意を得た上で小学校へ「保育所児童保育要録」を提出し、継続した支援を行っている。 </p>		
サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
◎あり ○なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
◎あり ○なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしきみがある	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ3の講評

保育課程にもとづき、子どもの状況に応じた計画を作成している

保育課程にもとづき、子どもの状況に応じた年間指導計画、月間指導計画、週案をその年の子どもの姿にあわせながら作成している。具体的な保育活動については週案の中で計画し、毎月の園だよりに月の活動を載せ、保育課程や週案は掲示して保護者に知らせている。保護者の要望や意向は、入園時の面接、送迎時の保護者との会話や連絡帳、個人面談、保育参観などの機会に把握するようにしている。具体的な支援内容と子どもの様子は、保育日誌に記載している。また、子どもの発達状況は児童票に記載している。

子どもや保護者の情報や計画の内容は、全職員で共有している

計画の内容や個人の記録を、支援を担当する全職員が共有し活用するために、情報は申し送りノートに記録し、月案・週案は職員会議で報告している。月の指導計画を作成し、各クラスが園だよりにより毎月載せて配布している。また、計画は全職員が見ることができるようにしている。子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報は、職員間で共有するために、申し送りノートや昼礼、朝礼を活用し、報告している。報告された内容は、昼礼板や朝礼板に記入し、全職員が目を通すようにしている。

保護者との共育での観点から、子どもの保育のねらいを共有している

年度初めの保護者懇談会で園長やクラス担当職員が指導計画を伝えている。園だよりでは、各クラスの計画を記載したり、各クラスに週案を掲示したり、月の保育計画や週の計画を知らせている。0~2歳児は、毎月一人ひとりの状態に応じた保育計画を作成している。また、支援が必要な子どもについても同様に個別計画を作成している。保護者にはクラス全体の目標について、保護者会やクラスだよりなどで知らせ、個別の計画については、個人面談で伝えている。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況 7/7

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◎あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

子どものプライバシーの保護と羞恥心への配慮に努めている
 個人情報の取り扱いや利用目的については、「新入児面接」や保護者会で説明し、同意を得ている。外部と個人情報のやりとりをする際には、その都度保護者へ連絡することで、同意を得ている。突発的な撮影の写真に関しても、改めて手紙で知らせ同意を得るようにしている。プールの際には子どもの羞恥心への配慮として、カーテンやパーテーションで見えないようにしている。また、着替えは脱いだものから着るという手順を、子どもに繰り返し指導している。おむつ替えはトイレで見えないように行っている。

子ども一人ひとりを尊重するために、自らを振り返る機会を設けている
 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重するために、職員会議やクラス会議、昼礼で保育を振り返り、保育理念「あったかい心をもつ子どもに育てる」をもとに、声のかけ方や接し方に気をつけているかを確認している。「自己評価チェックリスト」を参考に、その後、クラス内や全体において振り返りを行っている。不適切な対応になっていないかを共通認識することで、子どもの気持ちを傷つけるような行為を防止している。気になる行動には、職員でお互いに声をかけるように努めている。

職員は虐待防止などの理解を深め、関係機関と連携をとる体制を整えている
 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて理解を深めるために、配属前の研修や区の研修に参加し、受けた内容を職員会議で報告して、全職員の学びになるようにしている。虐待を疑うケースを発見したときには、区の虐待防止マニュアルに従い、適切な対応ができるしくみが整っている。区や子ども家庭支援センターなど、関係機関と連携をとる体制が整備されている。

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

11/11

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

サブカテゴリ6の講評

保育園業務マニュアルをもとに、業務のレベルアップを図っている

業務のレベルアップ(標準化)のために、法人の「施設運営業務マニュアル」の中で、各種のマニュアルやチェックリストが作成されている。また、園内では各種マニュアルから資料を必要に応じて読み合わせを行い、確認している。「施設運営業務マニュアル」は事務所の書庫に常備しているので、職員は必要に応じて確認でき、また本部はマニュアルやチェックリストなどの見直しを毎年行っている。

業務水準確保のために、職員相互の見直しが行われている

法人が作成した施設運営業務マニュアルやチェックリストの見直しについては、年1回を基本としているが、職員体制や子どもの育ち・保護者の要望などに応じて年度途中での見直しも行っている。園独自に管理職アンケートを実施し、管理職に対する職員の思いを吸い上げ、園運営や日常の業務に活かしている。

基本事項や手順などの確認と指導では、保育に関しては学年(クラス)リーダーが、運営に関しては経営層が行っている。絵本係の職員は、絵本の貸し出しやふり返りも行っている。

サービス提供面でも職員相互および経営層からの指導、助言、相談を日々行っている

業務の一定水準を確保して行くために各クラスや各会議で報告と検証を行い、指導計画や業務の手順などを話し合い、業務推進に漏れないよう努めている。全職員が一体となって保育に取組めるよう、情報の共有やサービスのレベルアップ(標準化)に努めている。また、日常的な管理業務に関しては、職員がチェックリストなどをもとに点検し、園長が確認している。

園長は保護者対応や児童票や保育日誌の作成などについての指導や助言、研修報告書へコメントの記載など行っている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		37 / 37	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点(00000)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>職員は安全面を考えながら、子どもが主体的に遊べる環境構成を工夫されている</p> <p>子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境など全体的な姿を把握するため、入園時の個人面談や送迎時の会話から聞き取りをし、必要に応じて記載している。把握した情報は職員間で共有している。子どもが主体的に人やものに働きかけられることができるように、クラスの担任同士が話し合い、玩具の取り出しやすさを考慮したり、年齢に合わせて素材や教材を準備することで、職員は安全面を考え保育している。さらに、安全で遊びたいと感じる環境の工夫に期待したい。</p> <p>異年齢保育での子どもの活動の様子を公開保育として実施している</p> <p>子ども同士が年齢の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つように、異年齢交流を行っている。4・5歳児クラスでは、散歩や遠足、月集会などで、乳児(0～2歳児)とも異年齢交流を実施している。朝・夕の混合保育、土曜日の混合保育、延長保育など交流する機会があり、相手を思いやる気持ちを持って接している。園の方針である、「思いやりの気持ちを大切にします」をもとに、異年齢交流を行っている。</p> <p>子どもの特性や発達を考慮し、子どもの気持ちを尊重した援助をしている</p> <p>支援の必要な子どもへの配慮として、定期的に心理士などによる巡回指導を受けている。気になる子に関しては、発達相談を活用してアドバイスを受け、クラス保育の中で適切な援助を行っている。支援を要する子どもには、担当職員がその特性を理解し、保育や援助を行っている。子どもの年齢や発達過程で生じるトラブルについては、お互いに相手の気持ちが受け入れられるように、職員が仲立ちし、保育や援助を行っている。幼児(3～5歳児)クラスは担任が中心になり、子どもたちで話し合いの時間を設けている。</p>			
2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている			
		評点(0000)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
◎あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている		○非該当
◎あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
◎あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当

評価項目2の講評

指導計画にもとづき家庭と連携して生活習慣が身につくように支援している

発達の状況に応じて、食事・排泄などの基本的な生活習慣の大切さを保護者に伝え、指導計画にもとづいて支援している。連絡ノートや日々の送り迎え時に保護者に伝え、家庭と連携した指導が進められるよう配慮している。保健指導の中で看護師が、食事後の歯磨きの大切さや排泄の仕方を教えている。食事のマナーについては食育計画に沿って行っている。箸の使用は3歳児から始め、クラスにはもち方のイラストが、わかりやすく掲示されている。遊びの中でもとりいれ、家庭の様子も踏まえて個別に合わせて始めている。

午睡は個々の子どもの状況に合わせて配慮している

子どもの生活状況を登園時に連絡帳や会話で確認し、一人ひとりの状況に合わせて配慮している。0歳児は前日の様子や体調をふまえ、午前寝をしたり早めに寝かせたり、早めに起こしたりして、睡眠時間に配慮して。5歳児クラスは後半になると、小学校生活を意識しての休息を考慮している。午睡チェック表を使用して、安全と子どもの睡眠時間に気を配っている。

日常の子どもの様子を写真や絵などで伝えるとともに直接口頭でも伝えている

登園時には担当職員が、保護者に家庭での子どもの様子を聞き、視診とともに連絡ノートを見て、健康状態や機嫌などを確認して早番日誌に記入している。降園時には、その日の子どもの様子を、各クラス前に掲示して知らせ、午前中の様子は連絡ノートに記載して、午後の様子は担任職員が口頭で伝えるように努めている。延長保育は遅番の職員に申し送り、保護者に伝えるようにしている。内容によっては、担任職員が保護者に直接知らせることもある。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
◎あり ○なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当

評価項目3の講評

保育目標に向けた指導計画を作成し、日常の保育の中に反映している

日常の保育内容に保育目標を反映するために、保育理念や保育方針にもとづく保育目標を掲げ、保育課程が編成され、各領域を踏まえた年間指導計画や月間指導計画、週案などが立案されている。保育目標に「こころ認めあう子ども」「チャレンジする子ども」「あたま興味を表現する子ども」「発見を大切にす子ども」「からだ楽しく良く食べる子ども」「からだ中であそぶ子ども」を掲げており、目標の実現を目指した保育が展開されている。

子どもが遊びこめる時間と空間の配慮をしている

生活と遊びの空間を分けることによって、子どもが遊びこめる時間と空間の保障をしている。そのまま遊びの継続ができる場所があることによって、展開に応じた子どもの遊びへの要求が維持できる。玩具は年齢や発達に合わせて用意をして、また遊ぶ場所を設定することで継続して遊べるようにしている。年齢に応じた集団活動を日々の保育の中にとりいれることで、子どもたちが一緒に遊ぶことの楽しさを知り、自ら友だちの輪の中へ入っていけるように支援している。

園庭遊びや散歩など、季節の移り変わりを感じとれるように努めている

季節の移り変わりを感じ取れるように、各年齢で活動を計画し、園だよりに掲載している。散歩の途中で木の実を拾ったり、季節の移りかわる様子を見つけ、みんなで一緒に共感している。幼児(3~5歳児)クラスでは、プランターで季節の花を育てている。自然が少ない立地条件の中でも、絵本や図鑑を活用したり、野菜の栽培を通じての季節を感じられる活動も今後は考えており期待できる。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目4の講評

さまざまな行事への取組の中で、達成感を味わえるように活動している
 子どもたちが興味をもち、みんなで協力してやり遂げることの喜びを味わえるような行事として、日本の伝統行事や季節を感じ取れるような行事、達成感を味わえる行事など、目的に応じてさまざまな行事に取組んでいる。子どもの成長や成果を発表する運動会や生活発表会などは、日常の保育の中で取組んできた活動を保護者に披露し、職員も保護者とともに子どもの成長を感じ取れる機会となっている。運動会ではクラス全員で目標に向かって行き、達成感を味わえる行事である。

子どもが楽しく興味をもって行事に取組めるように、お祭りの機会を設けている

秋祭りは、子どもが興味を持ち、自ら進んで楽しく取組めるような行事であり、楽しく参加している。子どもたちは、お店屋さんで買い物をしたり、4・5歳児クラスは神輿(みこし)を担いで園庭を練り歩いている。お店屋さんに向けて子どもたちが品物をつくったり、神輿(みこし)の装飾を考えたり、各年齢で取組み方は異なるが、子どもたちは当日までの準備を楽しんで行っている。職員のお化け屋敷もお祭りを盛りあげている。

園の行事や地域のイベントなど子どもが職員以外の人と交流する機会を設けている

子どもたちが職員以外の人と交流する機会として、行事への参加を呼びかけている。子育て支援事業「みなとっこ」登録の家庭には、毎月出している手紙を通して、声をかけている。勤労感謝の日に、子どもたちは郵便局や歯科、医院、交番などを訪問し、お礼と感謝の気持ちを届けている。地域の行事である「さわやか体育祭」は高齢者と競技を通して体を動かして交流する機会である。また、5歳児は「赤坂能」の指導を頂き、発表会に参加している。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当

評価項目5の講評

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるように配慮をしている

保育時間の長い子どもが、くつろげる環境でゆったりと過ごせるように、静かに遊べる玩具を用意している。異年齢児の子どもたちが落ち着いて過ごせるように、時間帯や人数によって、部屋を分けて遊びを設定している。幼児(3~5歳児)クラスの子もたちと、乳児(0~2歳児)クラスの子もたちが、自然にふれあうことを大切にしている。保育園は22時まで開園しているので、保育時間の長い子どもが、他の子のお迎えによって寂しくならないように配慮している。

子どもの様子はクラス申し送り板や延長日誌で引き継ぎ、保護者へ直接伝えている

子どもの様子を確実に保護者に伝えるために、朝礼や昼礼の記録を用いて職員間で引き継いでいる。保育中の子どもの様子は「クラス申し送り板」「延長日誌」に記入し、口頭で担任職員から当番職員に引き継いでいる。お迎え時には、子どもの日中の様子を保護者に伝えるために、0~2歳児クラスの保護者には、連絡ノートに記入して伝えている。また、3~5歳児では、「一日の様子紹介」を用いて、全体的なことは連絡ボードに記載して伝えている。重要事項については、できる限り担任が保護者へ直接伝えている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
◎あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当

評価項目6の講評

子どもが楽しく、落ち着いて食事ができるような雰囲気を心がけている

保育園では、ランチルームを活かし、3・4歳児が食事をしている。子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気づくりとして、グループの人数やテーブルの配置を工夫している。職員は食事用のエプロン姿になり、三角巾をして食事の雰囲気をだしている。幼児(3~5歳児)クラスの職員は指導食を食べながら子どもたちと楽しく食事をし、マナーも伝えている。5歳児はクラスで配膳し、日直が挨拶をしてから食べ始める。子どもたちは、グループでの会話を楽しんでいる。

子どもたちが安心して食べられる給食を提供している

給食は区の統一献立によって、栄養バランスに配慮しながら季節の食材をとり入れた給食を提供している。園の食育目標には「楽しく、おいしく、意欲的に食事ができる」掲げて、さらに各年齢に合わせた目標もたてている。食物アレルギーのある子どもについては、入園前面接のときに確認し、医師の指示書にもとづき、個別に除去した代替食を提供している。調理師、看護師、栄養士、担任による献立チェックと提供時の確認などによって、安全な給食提供ができています。

食について関心を深めるための取組を行っている

食についての関心を深めるために、栄養士と担任職員が年齢に合った活動ができるように考え、食材を知る取組を行っている。例えば、3歳児はとうもろこしのひげを使ってお面をつくるなど、制作活動にも活かしている。保護者には、毎月の給食だよりや各クラスでの取組を、連絡ノート、写真で知らせている。保護者懇談会では当日のおやつを試食をして頂き、子どもたちが食べている保育園の味を知ってもらう機会を設けている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当

評価項目7の講評

子どものけがや病気を予防するための取組をしている

けがや病気を予防するため、子どもたちには日ごろから、身の回りの危険について伝えている。職員は各年齢ごとの遊ばせ方や、配慮事項を確認して、危険個所にはガードを付け、把握しながら遊び方を考えている。子どもの健康については、看護師が手洗い、歯みがきなどの衛生指導を随時実施している。担任職員は、外から帰ったときや食事前などのときに、うがいや手洗いを実際行って見せてその大切さを教えている。保護者には保健だよりを配布し、けがや病気について知らせている。

嘱託医による健康診断や歯科健診などを実施し子どもの健康管理に努めている

嘱託医による健康診断を、0歳児クラスは毎月2回、1・2歳児クラスは月1回、幼児(3～5歳児)クラスは年2回行い、歯科健診はそれぞれ年2回行って健康管理に努めている。歯科指導は幼児(3～5歳児)クラスで年2回行っている。看護師による視力検査も4・5歳児クラスは年1回行い健康管理に努めている。与薬は基本的に行っていないが、慢性疾患などで薬が必要な子どもについては、保護者に「薬・連絡票」と、必要に応じて医師の診断書を提出して頂いている。

園のしおりや保健だよりなどで子どもの病気についての情報を提供している

入園説明会で配布する園のしおりをもとに、感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)などに関する情報を提供している。予防に努めるために、保健だよりでも感染症流行時の情報を知らせている。感染症が発生したときには、病気の症状や潜伏期間などの注意事項を記載したお知らせを、保護者の目に留まるように、1階・2階・3階に掲示している。午睡時は、午睡チェック表により子どもたちの状況を把握している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
◎あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
◎あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

保護者同士が交流できる機会を設けている

保護者同士が交流できる機会として、保護者懇談会、お楽しみ会(0~2歳児)生活発表会(3~5歳児)、運動会、お祭りなどの機会を設けている。保護者会では、ビデオに撮った成長した子どもたちの姿を保護者に見て頂きながら、会話が弾むように心がけている。お楽しみ会では、親子で制作活動を行い、クラスみんなでポーリングをつくり親子で遊んでいる。職員は送迎時の会話や、保護者懇談会、個人面談、行事などの機会を大切にして、信頼関係を築くようにしている。

子どもの発達や育児について保護者との共通認識を得る取組をしている

保護者懇談会では、生活習慣のことや成長発達のことなどの資料を作成し、保護者からは子どもの成長や発達段階についての理解を得るように努めている。在園児の保護者には、園で行っている「子育てサロン」の子育てサポート講座の参加を呼びかけている。「気持ちを育てることばかけ」という母親向けの講座では、30名近くも参加している。また、産休・育休中の方向けの「子育てサロン」も継続して行っている。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○非該当

評価項目9の講評

地域在宅子育て支援事業を実施し、地域の子育て家庭の支援に取り組んでいる

地域在宅子育て支援事業として「保育園であそぼう(月1回)」「みなとっこ」を実施し、運動遊びやつくってあそぼう、ひなまつり会などの参加を呼びかけている。そのときに園の職員が、心身の成長のことや離乳食などの相談を受けている。また「保育園であそぼう」などの情報も伝え参加を呼びかけている。相談にゆっくり向き合うために、日程を決めることも検討していく考えである。在宅子育て家庭同士が交流できるように、「保育園であそぼう」で、参加者同士が知り合えるよう、職員が仲立ちをしている。

区で実施しているアンケートを参考に内容の検討をしている

提供している子育て支援事業の評価や見直しについては、支所の区民課が実施している子育て安心プロジェクトによるアンケートや「みなとっこ」アンケートなどの結果を活用している。保育園では、在宅子育て家庭の子どもたちと、同年齢の子どもたちが一緒に遊ぶことや相談室を活用し、相談日を決めていきたいと考えている。今後ますます充実した内容を提供できるように検討している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	7-1-2	個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している
タイトル①	園の運営や保育を推進するうえで、基本となる施設運営業務マニュアルを整えている	
内容①	園の運営業務の推進のために、施設運営業務マニュアルを整えている。日々の保育において特に活用するマニュアルは保育園業務連絡書として、別にファイルされている。施設運営業務マニュアルは、組織運営面や保育実践面、倫理関係に分類され冊子で構成されている。職員は入社前研修で、質の高い保育を推進するために、施設運営マニュアルより学習している。施設運営業務マニュアルは職員の手引書となり、業務の一定水準を保つことができる有効なマニュアルとなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-2	職員のやる気向上に取り組んでいる
タイトル②	職員との関係性をより充実するために、経営層に対する要望のアンケートを実施している	
内容②	職員の意見や要望を把握するために、経営層に対する要望アンケートを実施している。園長や副園長、主任に、職員が何を求めているのか、どのような意見をもっているのかを集約し把握している。経営層は出された職員の意見や思いをすいあげ、園運営に活かしている。経営層は定期的に個人面談などで、職員と積極的にコミュニケーションをとっている。このアンケートにより、経営層と職員間との距離感がさらに近くなり、関係性をより充実させる有効な取り組みとなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員の資質向上にむけたシステムが構築されており、マネジメントしている
	内容	職員の資質向上のために、入社前研修をはじめ専門職としての研修や育成計画などのシステムが構築され、多角的に職員の育成を図っている。園が求める職員像を明確にし、専門職としての目標を職員に周知している。職員の質の向上のために「能力向上シート」を活用している。園長は指導育成に関するマネジメントをはじめ、園長会での情報の提供や区の研修受講の機会もあわせ、職員の指導育成を図っている。理念である「あったかい心」をもつ子どもに育てると同様に、職員にもあったかな指導を重ね、専門職としての職員を育てている。
2	タイトル	園の方針に沿って子どもたちが経験を積み、社会性や言葉など総合的なスキルが身につくようにオリジナルプログラムを導入している
	内容	保育活動のなかで、子どもたちが楽しみながら遊び、学んでいけるように、保育所保育指針に沿って、保育活動を展開している。法人の楽習プログラムを通して、園の方針である「言葉」「経験」「体験」を大切にしますの実現に向け取り組んでいる。その一つとして、幼児教育プログラムで使うワークは、言葉や社会性など総合的なスキルが身につくように構成されている。一人ひとりが持っている「得意」を伸ばしていけるように、興味や発達段階で自由に表現する過程を大切に、個性と能力を伸ばしていくことを考え取り組んでいる。
3	タイトル	地域とのかかわりを大切にすることを園の方針に掲げ、幅広い交流を考え実施している
	内容	子どもたちが、自分の育っている地域に愛着をもち、地域の皆に見守られていることに感謝できるように、園の方針で「地域との関わりを大切にします」の取組に力を入れて地域交流を行っている。地域の子育て支援家庭「みなとっこ」に登録した方に、園の「みなとっこだより」を送って参加を呼びかけている。また、勤労感謝の日には、郵便局、交番、工事現場など、日ごろお世話になっている方にお礼に行ったり、また、ボランティアによる絵本の読み聞かせ「お話しポケット」が来園したり、交流を通して「子どもたちのあったかい心」を育てている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中・長期事業計画の重点項目の達成にむけて、職員一人ひとりの潜在的能力を活かした職員参加型の計画推進に期待する
	内容	中・長期事業計画や年度の事業計画にもとづき、日々の事業・業務を職員とともにすすめている。中・長期事業計画には、園の重点項目や具体的に取組を明記している。園長が中心となりその重点項目を達成するために、事業計画や園運営を円滑に遂行している。今後、園の事業展開の発展性を考慮して、経験年数の若い職員の育成や園の組織運営を継承していくことが重要である。中期事業計画の具体的に取組む項目ごとに、職員の担当者チームを編成するなど、職員一人ひとりの潜在的能力を引き出せる職員参加型の事業計画の推進に期待する。
2	タイトル	今回の保護者アンケートから対応面に関する声が寄せられていたので、より充実した園運営の推進のための検討に期待したい
	内容	園運営の充実を図るために、個人面談やクラス懇談会、行事終了後のアンケートなどで保護者の意向を把握している。また、園組織の透明性の向上のために、第三者評価を受審している。園では苦情窓口についての掲示やご意見箱を各階に設置し、保護者の意向の把握に努めている。今回の保護者アンケートで接遇や職員の対応面に関する声が寄せられていた。さらに保護者の意向を把握しながら、より充実した園運営の推進のための検討に期待したい。
3	タイトル	子どもたちが興味や関心をもち、自ら進んで主体的にかかわれる環境の充実に、さらに期待したい
	内容	園の環境は、子どもたちが興味や関心をもてるように、少人数のクラスに分け子どもたちが遊べる空間を確保している。ランチルームを活用し、各クラスの部屋は、生活と遊びの空間をつくり、遊びが継続できるようにしている。行事の秋祭りは、親子で買い物を楽しんでいる。子どもたちがつくった店の品物や、園庭を回る山車(だし)や神輿(みこし)も子どもたちが考えてつくり、自ら進んで行う活動になっている。さらに、園の方針にある「好奇心が伸びる環境」の工夫など、玩具の設置の仕方も含めて今後の検討に期待したい。